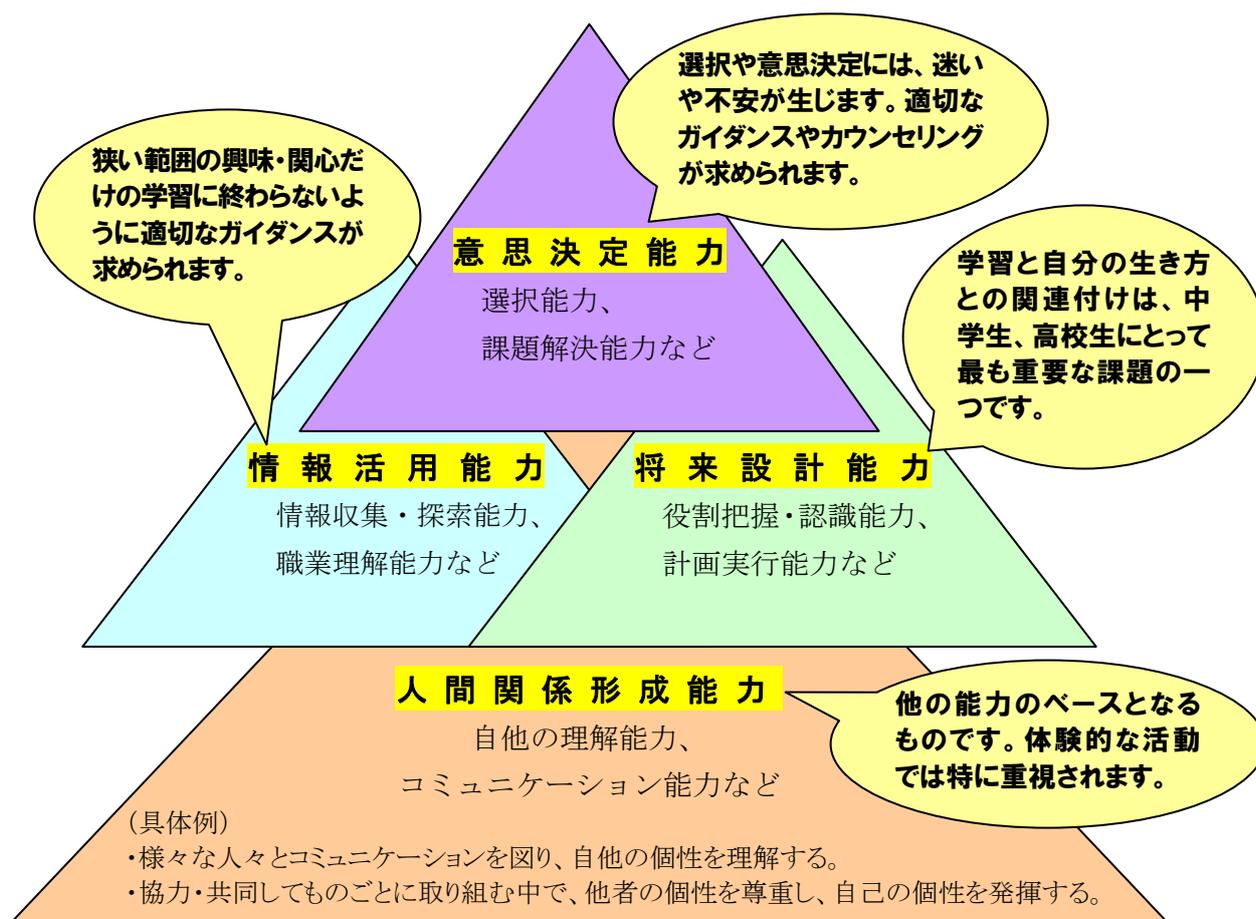


## Q2 キャリア教育で育成を目指す能力や態度とはどのようなものか？

**A2** 代表的な例として、「人間関係形成能力」、「情報活用能力」、「将来設計能力」、「意思決定能力」などがあります。

- 実際の活動の場面では、これらの能力を目標や評価の観点として用います。
- 育成を目指す能力や態度は、具体的に記述する必要があります。その際には、先行研究などの例を参考にするとともに、自校の児童生徒の活動の様子や自己評価の結果をもとに作成します。

イメージ図 キャリア教育で育成を目指す能力や態度



※ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について(平成14年11月)」に、詳細な具体例が示されています。(p.23、24の表)

## 事例紹介

ここでは、キャリア教育推進の柱の一つとなる職場体験を事例として取り上げて、育成を目指す能力や態度を、実践にどのように位置付けるかということについて説明します。

### 事例4〔中学校〕育成を目指す能力や態度を目標や評価の観点として活用

この中学校では、職場体験を通して育成を目指す能力や態度を明確にし、生徒に活動させています。また、自己評価の観点も明確にしています。

#### ■ この活動で生徒に期待することは？

体験的な活動は、抽象的な目標のまま実践しがちです。また、前後の活動との関連が希薄で一過性の体験に終わってしまうなどの問題点が、これまでも指摘されています。ねらいや評価の観点を明確にすることで、全員に気付かせたい点をはっきりするとともに、各自が活動を通して気付いたり、理解したりすることで内容の深まりが期待できます。

○ 従来の進路指導の目標

・・・勤労の喜び、厳しさ、すばらしさを実感し、幅広い勤労観や職業観を形成する。

(「感想」から一部抜粋)

- ◆ 貴重な体験ができて、いい勉強になりました。
- ◆ 製品をうまくつくることができてよかった。

「感想」という項目でも、様々な気付きや発見が期待できますが、必ずしも学んで欲しい観点到に目が向かないこともあります。

人間関係形成能力の観点から項目を設定することで、全員が振り返れるようにしています。

○ キャリア教育の視点で明らかにした「育成を目指す能力や態度」

人間関係形成能力の活用とその向上を目指す。

(具体例)

- ・働く人々とのコミュニケーションの充実を図る。
- ・働く人々がそれぞれの立場で、どのようにチームを組んで、互いに支え合っているか理解する。

(「職場のチームワークや人間関係などについて気付いたこと」から一部抜粋)

- ◆ 機械を扱う仕事に興味をもていましたが、作業の前のミーティングがとても重要だと感じました。
- ◆ 病院は、お医者さんや看護婦さんだけでは成り立たないということをいままで考えていませんでした。

#### 事例から学ぶこと

発達段階に応じた勤労観や職業観を身に付けさせるためには、育成を目指す能力や態度の重点化を図るとともに、それらに対応するように活動のまとめの課題や自己評価の項目を設定することが大切です。漠然と感想を書かせるだけでなく、具体的な項目を示して書かせることも必要です。

## 解説2 キャリア発達に関わる能力や態度(中学生・高校生の意識から)

若者の職業人としての基礎的資質・能力の低下など、キャリア発達の遅れを指摘する声はこれまでになく大きく、キャリア教育が社会から求められる背景ともなっています。

次の調査の質問は、将来の進路選択や生き方に関わる様々な事柄に対して、得意であるか、苦手であるかを聞いたものです。各項目は、キャリア教育において育成を目指す能力や態度と対応させています。

この調査結果から、キャリア発達に関わる能力や態度の面について、中学生や高校生の意識の特徴を読み取ることができます。

### 【質問】

あなたは、下の①から⑩の項目について、得意ですか、それとも苦手ですか。それぞれの項目について、次の4、3、2、1のうちから最もあてはまるものを選び、番号に○をつけてください。

- |                |                |
|----------------|----------------|
| 4 得意である        | 3 どちらかという得意である |
| 2 どちらかという苦手である | 1 苦手である        |

### [項目]

- ① 新しい環境や人間関係に慣れること
- ② リーダーとしてグループをまとめること
- ③ リーダーを助けたり、グループの仲間と協力したりすること
- ④ 身近な人々の仕事を理解すること
- ⑤ 進路に関する情報や資料を集めること
- ⑥ 勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること
- ⑦ 自分が将来どんな仕事につきたいか考えること
- ⑧ 自分がどのような仕事に向いているか理解すること
- ⑨ 希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること
- ⑩ 10年後や20年後の自分の人生や生き方を考えること

中学生

高校生

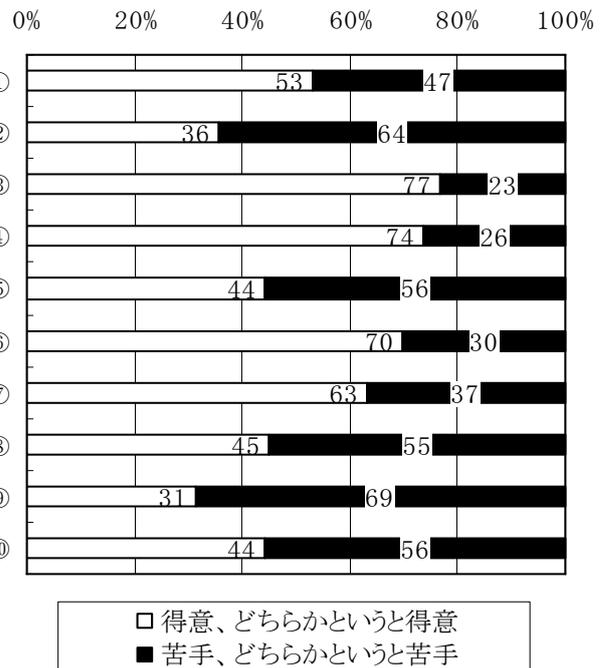
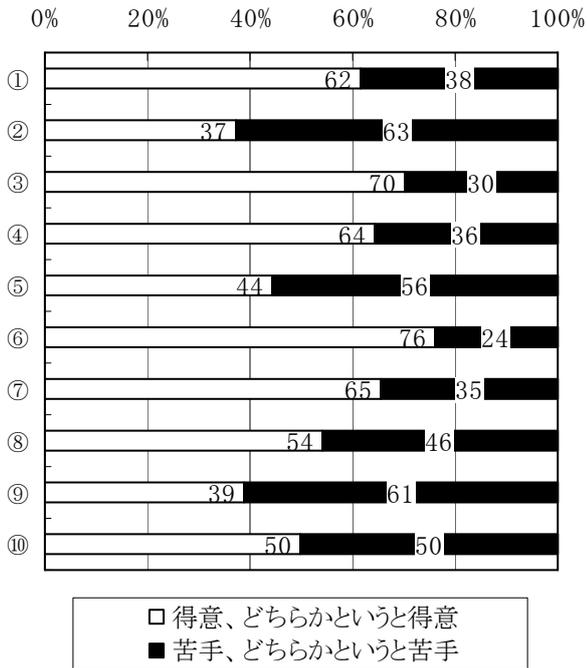


図 将来の進路や生き方などの事柄に対する「得意」、「苦手」の度合い

進路に関する調査（平成 17 年 7 月、栃木県総合教育センター）より  
 中学生 899 名（男 447、女 452）、高校生 869 名（男 201、女 668）、合計 1768 名

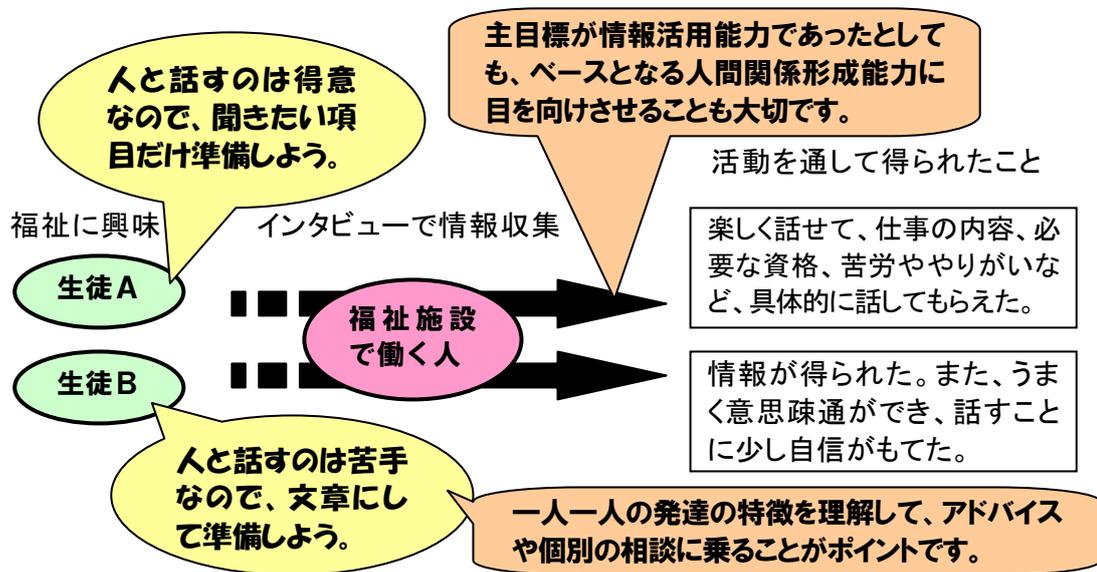
◆ 調査結果から分かること ◆

「⑥勉強、係活動、部活動などの内容に、おもしろさ、やりがいを見付けること」や、「⑦自分が将来どんな仕事につきたいか考えること」などに対しては、中学生、高校生とも、「得意」あるいは「どちらかという得意」と感じている生徒の割合が高い傾向が見られます。一方、「②リーダーとしてグループをまとめること」、「⑤進路に関する情報や資料を集めること」、「⑨希望の進路を実現するため、学習計画を立てたり、目標をもって生活したりすること」などのように、積極的あるいは主体的に取り組むことは、「苦手」あるいは「どちらかという苦手」と感じている生徒の割合が高くなっています。また、高校生では、「⑧自分がどのような仕事に向いているか理解すること」をどちらかという苦手と感じる生徒が多く、自他の理解の点でも課題があることがうかがえます。

### 解説3 キャリア教育が育成を目指す能力や態度のとらえ方

キャリア教育の実践では、活動のねらいを明確にするため、いくつかの能力に力点を置いて指導する必要があります。ただし、人の能力の発達は複合的なものであり、一人一人の児童生徒の中では、各能力は相互に関連しながら育つという考え方に立って指導・支援にあたることが大切です。

イメージ図 働く人に対するインタビューを通して能力や態度が育成される様子



体験活動を通して人間関係形成能力に自信を付けるとともに、情報活用能力も高めている例

#### ◆ 人間関係形成能力は様々な能力や態度の育成に関わるもの ◆

コミュニケーション能力をはじめとして、よりよい人間関係を築くための資質や能力は、社会人あるいは職業人として生きていくための基盤となるものです。小さなことでもかまいませんから、様々な活動を通して、人間関係に自信を付けさせていくことが大切です。また、あいさつや日常生活における基本的なマナーを指導する際には、相手や場に応じた振る舞いや、その人らしさを表現させることも重要です。